



はまなすBBQパークがオープンしました（本文中に関連記事があります）

目次 / contents

**ひと・まち・地域** .....

陸前高田市の復興事業を通じて / 堀口浩司 ②

日本初のエンタメ「ギア」の継続と第2の「ギア」 / 森脇宏 ⑥

**きんきょう** .....

まちに“小規模な連鎖”を生み出す「まちづくり会社」【(株)みらいもりやま 21】 清原健社長へのインタビュー / 三木健治・三浦健史 ⑧

景観を楽しむアプローチ：近況3題 / 絹原一寛・依藤光代 ⑩

福井県高浜町に「はまなすBBQパーク」がオープンしました / 武藤健司・原田弘之・高田剛司 ⑪

西宮市のまちづくりガイドブックが出来ました～西宮市・あなたの暮らしを豊かにする12のヒント / 清水紀行 ⑫

飛翔するタイ・アジア経済と日本の中小企業 / 杉原五郎 ⑬

アイ・スポット NEWS / 絹原一寛・中塚一 ⑭

**メディア・ウォッチ** .....

「地震を知って震災に備えるー京阪奈地域を中心としてー」 / 三輪泰司 ⑮

**まちかど** .....

皇居ランの風景 / 坂井信行 ⑯



## 陸前高田市の復興事業を通じて 取締役副社長／堀口 浩司

昨年の10月末から東京事務所、大阪事務所のスタッフが陸前高田市の復興計画、事業推進の仕事に関わっています。被災した各市町村の市街地の復興計画は、市町村が独自に立案する復興計画に即して、国費（平成23年度第3次補正予算）によって調査が進められました。被災地の復興にあたって、道路、公園、港湾、河川、下水道などの基盤施設の整備とあわせ、大規模な市街地の嵩上げや移転事業が実施されますが、中でも市街地整備については広範な範囲で改善・整備が必要なため、国は市町村の意見を反映しつつ計画づくりを支援しています。国土交通省の直轄調査「東日本大震災の被災状況に対応した市街地復興パターン概略検討調査（いわゆる②調査）」が市町村毎に行われ、市街地復興の基本構想となっています。また引き続き「市街地復興パターン詳細検討調査その④」が実施され、対象となる地区毎に土地区画整理事業の基本計画づくり、あるいは防災集団移転促進事業（いわゆる防集事業）の計画づくりが行われました。

昨年度は上記の②調査を請け負っていた日本都市総合研究所とプレック研究所のグループに10月から加わり、人口フレームや土地利用計画の検討などを担当しました。それぞれの事業地区での詳細検討を行う④調査グループの成果を反映した全体計画へのフィードバックなどを支援してきました。今年になってからは、都市計画決定に関わる計画・事業コンサルタントチームの一員として、人口フレームや地域地区などを担当し、引き続き地域区分や用途地域など土地利用部門を担っています。日本都市総合研究所は土地区画整理事業の

企画・立案や都市デザインを得意とするプランニングコンサルタントであり、過去にも高松港の調査や神戸東部新都心（後のHAT神戸）の当初の計画づくりにおいて当社と協働した経験があります。また、代表を務めておられる高見さん（法政大学教授）は、私が都市環境デザイン会議（JUDI）の代表幹事を務めていた4年の間にいろんな場面で相互に協力をいただいた関係もあって、気安く声をかけていただきました。

昨年度の後半以降、上記の国費調査を軸にして市街地復興計画が検討されてきた訳ですが、陸前高田市の場合には、市役所を含む市街地の大部分が津波被害にあったため、市職員も被災、行政資料は流出し、市役所など公益施設も使用不能になるなど、復旧作業や計画検討のプロセスも大変な状況の中で進められました。我々も部分的な分担ではありますが、清水君を始め坂井君や岡本君など専門分野をよくわかった所員が短期間で集中的な検討をする体制で望みました。

### 復興計画の進捗について

関西の人たちが経験した阪神・淡路大震災では、建物の崩壊とそれに起因する火災が被害の中心となりましたが、東日本大震災は地震に加えて津波による被害が甚大でありました。そのため復興にあたっ



嵩上げを待つ旧市役所より海岸線を望む

では、建物の再建に止まらず、津波に対する安全な市街地（宅地）の確保からスタートせねばなりません。津波に対する安全性確保のため、堤防の強化と合わせ、市街地の高所への移転や低地の嵩上げが行われます。そのための手法として土地区画整理事業と集団移転促進事業（防集事業）が活用されます。このような復興事業を通じて安全な住宅地の整備を行うため、用地確保や上下水道など基盤整備に時間がかかっています。

市街地の復興にあたっては、住宅地の安全性を確保しつつ、生活の基盤となる公共公益施設や産業用地などの機能の確保が求められますが、今般の津波被害の経験から、その堤防や地盤の高さの設定が重要な要素となっています。既にご存じの方も多いかと思いますが、堤防の高さは国や県によって広域的に検討されています。明治三陸地震など数十年から百数十年の頻度で発生する津波（レベル1）を対象として堤防高さを設定する一方、今回の災害のような数百年に一度の頻度で発生する可能性のある津波の高さ（レベル2）のそれぞれの高さを設定し、レベル1の高さの津波については、生命財産の保護や地域経済活動の安定化のため堤防や地盤の嵩上げをすることとしています。一方、レベル2の災害については、住民の生命を守るため、避難、土地利用、防災施設等によるハード・ソフトを重ねた多重防御で対応するとしています。

陸前高田市は広田湾に面しており、新しい堤防高さが12.5mとなり、また平野部が大きい広範なエリアで同様に地盤の嵩上げを行うことになっています。（今時津波の痕跡高は18.3m）



図は東海新報（9月4日版）に掲載された整備イメージ

発災前の堤防高さは5～6.5mですから、新しい堤防・嵩上げの高さは、市街地の構造や取り付け道路の位置など幅広い影響があり、また多くの住民が短時間で避難可能な避難路や避難施設、防災施設の整備も必要となり、これらを条件にいった市街地の復興が求められています。復興市街地の整備にあたっては、防災・減災に十分な配慮を行った都市構造・土地利用を新たに用意すると共に、従前の都市の持っていた魅力や都市機能を復旧し、併せてさまざまな市街地の問題点（土地利用の混在、拡散化した市街地、新たな産業機能の導入など）の問題を解決しつつ創造的な復興市街地を作っていくことが求められています。



### 事業と計画の同時並行作業

陸前高田市では高台の森林や丘陵地を開削して宅地化する一方、低地部でも地盤の高いエリアでは嵩上げすることで安全な地盤高さを確保し、高台、嵩上げのそれぞれに住宅地を整備する予定です。海から丘陵部に向かって、垂直方向、水平方向にそれぞれ何メートルか市街地が平行移動することになります。

当然のことながら安全な高台の住宅地への移転意向が強く、嵩上げ地はやや人気がありません。嵩上げの盛土高さも5～8mと厚みがあるため、地盤の安定や基礎工事などで建設時に新たな費用も発生することから人気がなく、土地利用面の需給関係の調整が重要なテーマとなっています。

復興市街地の建設にあたっては、全体として市街地が高台へ移動することになりますから、移転先用地の確保が重要です。昨年の国費調査では主として土地区画整理事業を中心に検討が進みましたが、今年は移転用地の確保、被災者の移転需要、新しい都市の骨格となる道路網の検討、土工量や事業費など宅地開発の検討といった事業面の検討が進められています。

このようなフィジビリティの高い事業化検討の一方で、人口や産業、雇用や地域コミュニティの有様といった被災後の将来目標を具体化する検討作業も併行して進みつつあります。平時であれば自治体の基本構想や総合計画、産業ビジョンや都市計画マスタープランなどの上位計画に基づき、その具体化手段として市街地開発事業などが進められます。市街地の大部分が被災した陸前高田市のような場合、前提となる全体計画や上位計画も大きな変更を余儀な

くされます。このような非常事態では、土地区画整理事業など実効性のある「事業」と地域住民が目標とする「計画」とが同時に検討されつつ逐次調整するといった過程を辿りつつあります。

人口の減少や製造業の海外移転など全国的な動向を背景にして、都市の復興に向けた土地需要を生み出していく必要があります。単純に従前の市街地を高台に置き換えるだけでは済まない筈ですので、新たな都市の価値を生み出すような努力が求められると思います。

### 新たな市街地形成は時間との戦い

土地区画整理事業の事業期間中は建物建設がストップしますから、仮設の住宅は学校の校庭など公共用地に立地し、民間の商業サービス施設は、開発整備の予定がない市街地のフリンジ部などで仮設店舗の建設が進んでいます。

土地区画整理事業が長期化すると、これらの仮設店舗は半ば本設化し、事業が完了して都市機能の受



外周部に立地する仮設店舗群

け皿となる新たな市街地が整備された時期には既に外周部の土地利用が固定化している恐れもあります。商業施設は隣接地域との競合もあり、製造業等は事業継続・雇用継続のため、一度、市外へ転出した企業が戻ってこないなど、あまり長期化すると宅地が用意された時には既に需要が乏しくなっていることも想定され、大規模な市街地整備を短時間で行うことも要求されています。

土地利用計画の技術的な課題としては、新都市開発として当面の需要や将来の発展を展望したバランスのとれた計画を実現するという一方、事業地区外では自力再建や仮設的な市街地形成を許容しつつ、中長期的に（あるいは最終的に）まちの形が整えられるかどうかというところにあります。

#### 専門的ヒューマンリソースの限界

陸前高田市は市街地の枢要な部分が被災し、市役所などの公共施設も全壊したため、職員の死亡や行政資料の損失などにより行政機能の回復にも時間を要しています。市内には住宅や宿泊や飲食などサービス施設も不十分なため、被災された住民と同様に日常的な生活や就労のための環境を確保しながら、復興のための仕事を進めています。陸前高田市は人口規模に比較して、短期間に多くの事業を実施する必要があり、これまでに経験の

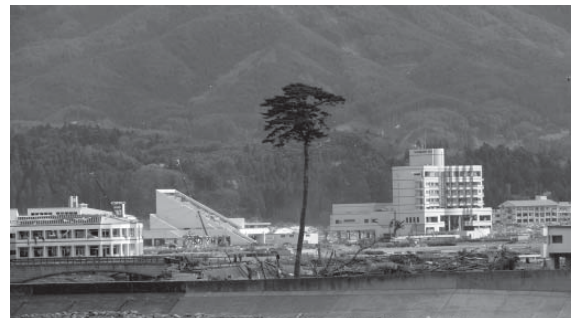
ない都市計画の作業もあることから、岩手県や県内の近隣市、それに福岡県・福岡市・久留米市や名古屋市などの自治体からの出向者も復興業務や土地区画整理事業に関与しています。また都市機構も支援に入っています。

アルパックのスタッフは常駐ではありませんから、まだ苦労はありませんが、このような市職員やコンサルタントも隣接する住田町や大船渡市、背後の遠野市などに居をかまえ通勤されています。多くは民家・農家の空屋などを借用して事務所にしており、それぞれ不自由な業務環境を余儀なくされています。

コンサルタントについては、現在は土地区画整理事業や防集事業など宅地開発を専門とするスタッフが中心です。これから測量、用地取得、運土計画など事業費に直結する技術的検討が目白押しです。一方、町全体の復興を考えると産業や雇用、教育や福祉など幅広い分野にわたって、解決すべきテーマがあり、新しい市街地空間づくりと併行してまちづくりのソフト面を充実していくことが必要です。こういった分野についても復旧から復興への段階に来ているように思います。さまざまな分野の専門家の支援がますます必要になってきています。



陸前高田市仮設市庁舎



この一本松は海水により枯死し、モニュメントとして保存するため9月12日に伐採されます



# 日本初のエンタメ「ギア」の 継続と第2の「ギア」

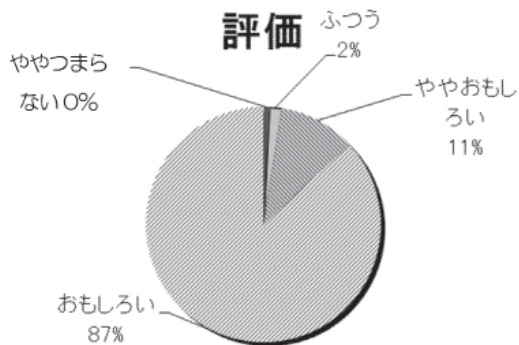
代表取締役社長／森脇 宏

外国人も楽しめる新たな観光コンテンツとして、「ギア」という演題のノンバーバルパフォーマンス（非言語の舞台劇）のロングラン公演を、4月から京都市内で開始しています。私が理事を務めているNPOの主催で、その趣旨や特徴等は今年3月発行のニューズレター Vol.172で紹介済みですが、徐々に観客も増えてきており、さらに続けていく予定ですので、引き続きご支援ください。

また、こうした新たな観光コンテンツとなりうる第2第3の「ギア」を育てるため、多くのプロデューサー等の方々と一緒にKCF（Kansai Creative Factoryの略称）と呼ばれる取り組みを進めています。現在、第2の「ギア」の候補について、支援方法を検討していますので、これらの取り組みにもご注目ください。

## 口コミによる広がる「ギア」の人気

ギアの観客には、客席にアンケート用紙を据え置いて、ご記入をお願いしていますが、この回収率が80%と通常の舞台に比べて格段に高いことが特徴の一つです。しかも、その評価も「おもしろい」が87%、「ややおもしろい」を加えると98%と、たいへん満足度の高い評価をいただいています。こうしたことから、口コミでお客さんがジワジワと広がっているようで、アンケートで「ギアを知った情報源」をお聞きすると、「その他」が55%と圧倒的に多く、その具体内容としては「友達・知人から聞いた」などという記入が多くなっています。

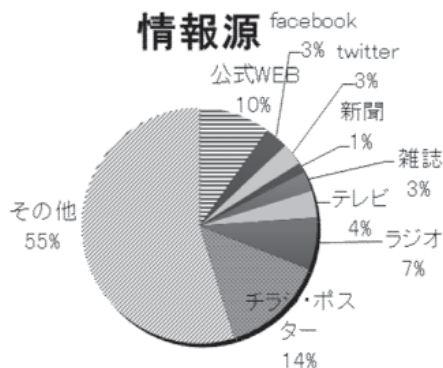


また、ギアは資金力の乏しいNPO主催ですので、広告費はありませんが、「外国人も楽しめる新たな観光コンテンツの創造」というチャレンジの趣旨をご理解いただいて、ご支援いただけるマスコミ等には、好意的に取り上げていただいています。特に、FM802のほとんどのDJの方々には観に来ていただいて、番組で「おもしろい」と話していただいています。アンケートの「ギアを知った情報源」という質問には「FM 802で聞いて」という回答が「ラジオ」という選択肢だけでなく「その他」の中にも結構ありました。また、関西ウォーカーには、誌面やWEB上で何度も取り上げていただいています。

こうした情報で来られた観客の多くは、従来のコアな舞台ファンではありませんので、前売り券を買わず、映画館の感覚で当日ふらりと来られて当日券で入場されている方が多いのも特徴の一つです。したがって、「ギア」公演の一番の目的は「外国人も楽しめる新たな観光コンテンツ」ですが、「新たな観客の開拓」という副次的効果も発揮しているようです。

## 9月からはジャグリングの参入

ギアのキャストは、ヒロインのドール、パントマイム、ブレイクダンス、マジック、バトントワラー、と5つのパートに1人ずつ登場する形で構成されていました。このバージョンで4月から7月までのロングラン公演を続けてきましたが、新たなチャレンジとしてジャグリングが参入するバージョン2に9



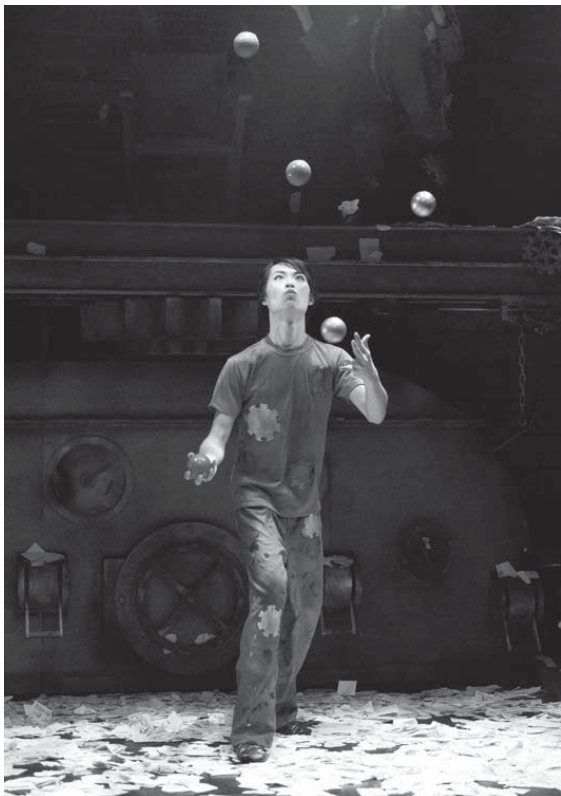
出典：NPO法人ライブエンターテインメント推進協議会

月から改定しています。したがって、これまでのバージョン1を既にご覧の方も、新たなバージョン2をぜひご覧ください。

ギアの会場は、京都市の都心である三条御幸町にある「ART COMPLEX 1928」です。公演日時は、月・金・土・日・祝日は昼公演と夜公演の1日2回公演、火・水・木は休演となり、チケット代は、大人3800円、19～22歳&60歳以上3200円、4～18歳1800円とバージョン1より少しお安くなっています。詳細は、ギアのホームページに掲載されていますので<<http://www.gear.ac/>>、こちらのサイトをご覧ください。

#### 関西発のエンタメ産業を育てる仕組み

元々「ギア」は、外国人観光客も楽しめる観光コンテンツの創造と、クリエイティブ産業の育成を目的として取り組んでいますので、第2第3の「ギア」が次々と登場し、産業として成立していくこと



ジャグリング

(出典：NPO法人ライブエンターテインメント推進協議会)

が望めます。このため、ブレイクする可能性があるコンテンツを、資金、会場、プロモート等の面から支援するKCF (Kansai Creative Factoryの略称) と呼ぶ仕組みを、近畿経済産業局のご支援をいただいで一昨年度と昨年度に検討してきました。今年度からは、多くのプロデューサー等の方々に集まっていたいただいたKCFサロンを設置して、第2の「ギア」の発掘や情報交換等のための会合を重ねています。

#### 第2の「ギア」をめざしたチャレンジ

現在、第2の「ギア」の候補として、「FAKEST (フェイクスト)」というストリートダンス・エンターテインメントが挙がっています。WRECKING CREW ORCHESTRA (レッキングクルーオーケストラ) というストリートダンス・ユニットが、ELワイヤーを使用して、CGのように光るダンスを中心に創作したパフォーマンスです。

このダンスは、SONYのスマートフォン・XperiaのCMにも起用され、2012年2月にYouTubeにUPされて以降、半年間に1000万ビューを記録するなど、世界から注目されています。9月15日16日には、シアターBRAVA! (大阪市内) で公演され、多くの観客を集めて成功しました。大阪は世界でも有数のストリートダンスのメッカであり、有望なダンサーが多くいるという事実もあります。今後、観光コンテンツとしてビジネス化できるように、どのように支援していくかを検討していく予定です。こうした取り組みにも、今後ご注目ください。



FAKEST (出典：シアターBRAVA! ホームページ)



きんきょう

まちに“小規模な連鎖”を生み出す「まちづくり会社」  
「(株)みらいもりやま21」  
清原健社長へのインタビュー

京都事務所／三木健治 大阪事務所／三浦健史

本紙VOL172でご紹介した『うの家』の管理運営を行う、滋賀県守山市のまちづくり会社「(株)みらいもりやま21」(以下MM21)の清原社長に、お話を伺いする機会を得ました。

『うの家』は、当初予定を大きく上回り2カ月間で1万人を集客するなど、短期で大きな成果をあげています。清原社長の考える、まちづくりやまちづくり会社のあり方について、お話の一部をご紹介します。

**ま** ちに新たな風を吹き込んだ『MM21』

清原社長は、市内で袱紗などの和雑貨をつくるモノづくり会社の経営者で、これまでまちの活性化には、ほとんど関わりはなかったそうです。

—平成20年に、商工会議所の副会頭に就任しましたが、同時に、市長や商工会議所会頭から、まちづくり会社の社長に就任することを依頼されました。私は商業者ではないし、活性化に向け頑張っている商業者の方がおられたので、固辞していました。しかし、市長や会頭の要請にまけ、社長就任を受けることとしましたが、新たな取組みを行おうとする中で、地元とのしがらみの少ない私に白羽の矢が立ったのではと思っています。—

MM21では、設立の初年度から“100円商店街”や“もりやまバル”“まちゼミ”といったイベントを仕掛けています。

—MM21では、設立初年度から、これまで守山にはなかったイベントを仕掛けてきました。これが、MM21の認知度と信頼感を一気に高めたとと思います。これらのイベントは、若手社員の功績が大きいと思います。彼は、県外出身者で、社員公募で来た人です。面接時には、なんと生意気な若造だと思いましたが、彼特有の個性が設立当初からのイベント実施につながったと思います。まちづくり会社の初動期には、彼のようなハリキリボーイの存在は大きいと思います。—

**中** 小企業経営者の視点での会社づくり

清原社長は、社長就任と同時に、全国各地のまちづくり会社の視察に行き、先進事例の失敗をみて回ったそうです。

—まち会社が、どんな仕事をすればよいのかは、先進事例などを見てわかりますが、どのように運営すればよいのかは、全くわかりませんでした。そこで先進事例の視察に行きましたが、どのようにして成功しているのかではなく、どのような失敗をしているのかを見て回りました。上手くいっているように見えても、結構失敗していることもあります。私は、中小企業経営者として、また、まちづくり会社が市民からの出資により設立していることから、絶対に赤字を出

してはいけないと思っています。その意味で、華々しいことより、堅実に運営するためにどうすればよいのかを考えました。—

MM21では、プロパー職員による運営を行っています。

—先進地を見て回って、行政や商工会議所からの出向による組織化は避けようと思いました。優秀な行政マンや商工会議所職員によって、成果を出しているまちづくり会社もあります。しかし、行政などからの出向の場合、職員が2～3年で交代します。まちづくりは、継続性が重要だと思います。社員が交代すると、どうしても取り組みの継続性が失われかねないと思ったのです。そこで、市からの出向職員ではなく、当初からプロパー職員による組織化を行おうと考えました。その当時、ふるさと雇用の制度があったので、その制度を活用して職員を採用することができました。この間に会社の体力をつけることができ、今後も自前の職員を採用することとしています。—

**ま** ちづくり会社、市、商工会議所のトライアングル

守山市では、市長と会頭、MM21の社長が、毎月1回定例会議を行っています。

—まちづくり会社は、中心市街地の活性化に向けた仕事を行います。そのため、市や商工会議所との協力連携が不可欠です。特に、この3者のトップの意思疎通が重要だと思っています。そこで、市長と商工会議所の会頭、そしてMM21の社長の私は、毎月1回



の定例会議を行っています。そこで、これからのまちづくり会社の事業などを説明するのですが、トップ同士が合意して進めるので、取り組みがスムーズに進みます。—

**MM 21 では、2週間に1回は、社員ミーティングを実施しています。**

—MM 21 では、定期的に社員ミーティングを実施しています。その週の仕事などの調整や新たな企画について検討しています。社員には、自主的に考え、実行することを、口を酸っぱくして伝えています。また、いろいろな事で社員のスキルアップができるようアドバイスしています。この会議に市の担当職員の方も同席することもあります。『うの家』では、経済産業省の戦略補助金の補助を受けましたが、その際、市の担当者の方の協力が無ければ難しかったと思います。まちづくり会社の運営では、行政のきめ細かなサポートが必要不可欠だと感じています。—

**ま**ちづくり会社は、小規模連鎖を生み出す仕掛け

**MM 21 では、ほたる飴、守山メロン飴、モーリーハンドタオル、守山の眼鏡ふきといった商品を開発し販売しています。**

—MM 21 では、モーリーハンドタオルや守山の眼鏡ふきといった商品を開発し販売しています。私は、これまでモノづくりの会社を経営してきたので、このような商品開発のカンを持っています。モノづくりには初期投資が必要

ですが、MM 21 で負担するのは難しかったので、私の会社で初期投資を負担した部分もあります。一定、販売が軌道にのってきたので、今はMM 21 に任せるようにしています。新たな取り組みには、まちづくり会社単独ではなく、周囲の事業者の方々と協力しながら取り組んでいくことが必要だと思っています。—

**MM 21 では、守山市から「うの家」と「あまが池プラザ」の指定管理により、施設の運営管理を行っており、会社の運営基盤が固まりつつあります。**

—今年の1月に、守山宿・町家『うの家』がオープンしました。当初予定では年間7千人の集客を予定していましたが、2カ月で1万人を超えました。つい先日、ウェディング企画会社に『うの家』を結婚式場として活用していただき、関係者に喜んでいただきました。一つの場が生まれると、いろいろな事業の可能性が高まっていくのだと実感しています。また、8月からは、小学校、幼稚園、親水公園と一体的に整備した交流施設『あまが池プラザ』がオープンし、MM 21 がその運営管理を行う予定です。これからこの2拠点を運営することで、新たな事業を行い、さらなるにぎわいを創出できればと考えています。—

**これからのMM 21 の取り組みや役割として、“小規模連鎖”を生み出していきたいとお考えです。**  
—私は、まちづくり会社だけで、まちの活性化を生み出していく

ことは不可能だと思っています。設立からこれまでは、先ず、市民のみなさんに、まちづくり会社はどんなものなのかを知ってもらうため、まちづくり会社が先頭に立って新たなイベントを仕掛けてきました。しかし、これからは、中心市街地の事業者や市民の方から、“こんな事をしたいのだけど・・・”といった相談を受け、事業者や市民の方が主体的に行うことをサポートする役割を担うべきだと考えています。その意味で、まちづくり会社は、まさに、“小規模な連鎖”を生み出す仕掛けに徹するべきだと考えています。—

まちづくり会社のありようは、地域事情や活性化の方向性などに応じて、それぞれであると考えられますが、今回の清原社長のお話から、まちづくり会社の考え方として、①会社の自立性を保つこと、一方で、②行政などとの密な連携・協力体制を確保すること、が重要であることをご指摘いただいたと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、貴重な時間を割いていただきました清原社長には、この場をお借りしてお礼申し上げます。





## 景観を楽しむアプローチ： 近況3題

大阪事務所／絹原一寛・依藤光代

「景観」をテーマとしたまちづくりは各地で広がりつつありますが、最近では「景観に関心のない人でも楽しめる、興味を持てるアプローチ」が求められているように思います。それに関連して、最近お手伝いしたプロジェクトを3つご紹介します。

### 景観まちづくり情報誌「あさいろ」

ニュースレター Vol.172 でご紹介した朝来市の景観まちづくりのお手伝いの一環で、住民の方々に景観を知ってもらうための情報誌「あさいろ」の編集・制作に取り組みました。

この情報誌は「普段の暮らしの中で垣間見える何気ない景観、その大切さに目を向けたい」というコンセプトで、暮らしの中にあるとどりの豊かな景観があるという意味を込めて「あさいろ」という名前を付けました。



景観まちづくり情報誌「あさいろ」

住民の方々の視線を意識したいわば「普段着」の景観を写真で集めるとともに、地元でまちづくり活動をされている方にお話をうかがいました。デザインは、他のプロジェクトでも一緒させて頂いているバード・デザインハウスにお願いし、できるだけ親しみやすく読みやすい紙面・デザインにしてみました。

次号も発刊予定ですが、今度は編集も地元の方と一緒に取り組んで、「あさいろ」をより身近で楽しく読める情報誌に育てていければと思っています。

冊子は市役所で配布しているほか、市ホームページでも公開しています。(絹原)

<http://www.city.asago.hyogo.jp/0000001726.html>

### 「篠山映像想いがたり」プロジェクト

ニュースレター Vol.171 でご紹介した篠山映像想いがたりプロジェクト。篠山の本質を映像化しようという試みで、映像プロデューサーの奥村恵美子さんと一



「篠山映像想いがたり」ホームページに取り組みさせていただいた映像作品が、ついに完成しました。

そして、奥村さんが主催する会「にっぽんの文化的アイデンティティを映像を通して発掘、発見、発信する会 (JICP)」で映像の試写とトークイベントを主催され、私も参加させて頂き、さまざまなお立場の方と一緒に、完成した映像を題材に意見を交わしました。

私が印象的だったのは、制作の過程で撮影者がカメラを回した映像、そしてそのやり取りから感じ取られたことが、とても深い本質へと迫る「生きたまちづくりの題材」だったことです。こういう映像集めを通じてまちづくりへとつなげる、そんなアプローチがあると、また違った切り口で楽しめるのではないかと、思いました。

映像はYoutubeで公開しています。ぜひ、ご覧になって、感想をお寄せください。(絹原)

<http://www.youtube.com/watch?v=avzMR6CB68E>

### 「『景観人』の生き方×まちの魅力」インタビュー

ちょっと硬いイメージのある「景観」を、「まちを魅力的にするために行動している人=『景観人』」に生き方や考え方を交えながら語ってもらうことで、市民にもっと身近に感じてもらうという和歌山市での試みです。まちなかを元気づけるための数々のイベントを裏方で支える人、海や川が美しく見える場所に次々にカフェをつくっていく



子どもでもごみを分別して捨てられるように、ごみ箱の色と投函口の形を変えている

人。和歌山市には、まちの魅力づくりのために情熱を傾けている人がたくさんいます。その方々の姿勢や原動力になっているものなどの話を織り交ぜながら、お気に入りの風景や場所などについて記事にしています。

「和歌山市の景観」ホームページで連載していきますので、お楽しみに！（依藤）

<http://wakayamacitylandscape.wordpress.com/>



「和歌山市の景観」ホームページ

## 福井県高浜町に「はまなすBBQパーク」がオープンしました

京都事務所／武藤健司・原田弘之 大阪事務所／高田剛司

福井県高浜町では、若狭高浜観光協会が中心となって、町内のビーチにバーベキュー（BBQ）専用エリアを設け、2011年から地元の食材を使ったBBQ



目の前に海が広がり、海水浴も楽しめる「はまなすBBQパーク」

（地産地焼）、通称“浜ベキュー”を進めています。今年の夏は、若狭若田海水浴場に「はまなすBBQパーク」を新たに開設し、浜ベキューのさらなる普及に取り組んでいます。

はまなすBBQパークは、BBQ用の場所を区画単位で借りることができ、40ある区画のうち、12区画はテントとテーブルベンチ、コンロが付いています（残り28区画は場所のみの提供）。海が目の前に広がるはまなすBBQパークは、海水浴も楽しめる国内でも数少ないBBQパークです。

### 利用者も大満足のはまなすBBQパーク

8月上旬に、はまなすBBQパークの利用者にヒアリングを行い、満足度などについて調査しました。設備、利用条件、快適さなどについて多くの方が満足であり、「是非また利用したい」という声を多くいただきました。また、「ごみの分別にも協力する」という利用者が大半であり、懸念されていたごみの分別も守られていました。分かりやすいごみ箱の設置など、快適な環境を整えることは、利用者マナーの向上につながるように思います。

一方で、利用者の多くは、お住まいの地域で食材を調達しており、高浜町で食材を調達していた方はごく僅かでした。その理由としては、「購入できる場所が分からなかった」、「事前に調理しておきたい」などといった意見であり、浜ベキューの推進に向けて、

今後、食材購入が可能な店舗情報や調理場所に関する情報提供が必要であることが分かりました。

### 浜ベキューを実際に体験！

浜ベキューを実際に体験するために、夏休みを利用し、所員や関係者有志で、はまなすBBQパークを訪ねました。現地のスーパーでの食材調達は、地元食材に触れることができ、選ぶ楽しさとともにBBQへの意欲が高まります。実際に、海鮮などの新鮮な地元食材、海を臨むロケーションでのBBQは、高浜町の自然を丸ごと味わっているようでした。

また、今回体験したことで、人数に適した食材を購入する難しさを実感するとともに、クーラーボックスの貸出など、手ぶらでBBQをする場合にあれば便利なサービスなど、今後の展開についても考えるきっかけとなりました。

みんなでワイワイと海水浴やBBQを楽しむことは、（特に子どもにとっては）夏休みの貴重な思い出になると思います。



浜ベキューの食材を店内で宣伝するスーパーマーケット



そのような楽しい時間を高浜町で過ごしてもらえよう、はまなすBBQパークの利用、また、浜ベキューの普及を進めていきたいです。

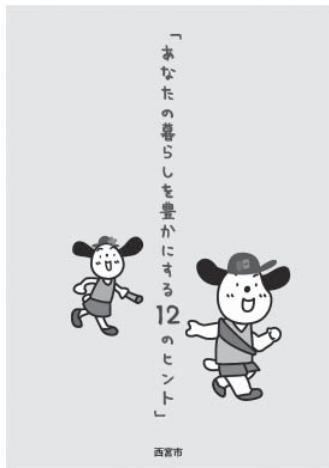
参考：<http://www.wakasa-takahama.jp/file/hamabecue.html>

### 西宮市のまちづくりガイドブックが出来ました～西宮市・あなたの暮らしを豊かにする12のヒント

大阪事務所／清水紀行

以前にニュースレターでご紹介しましたが、弊社は西宮市都市計画マスタープラン策定（H23.4月策定）のお手伝いをさせて頂きました。（※関連記事はvol.158、162）

この都市計画マスタープランは西宮市にとって本格的に市民参加に取り組んだ初の計画と言っても過言ではありません。西宮市は、「このマスタープランを受けてそれぞれの地区に関わる市民・事業者等による地区まちづくり計画の策定支援を行う」



とうたっています。その支援ツールのひとつとして、まちづくりガイドブック「あなたの暮らしを豊かにする12のヒント」が出来ました。

このガイドブックは、市が市民参加プログラムの一環として取り組んだ「西宮まちづくり塾（H21～22年度）」での講演内容をもとに作成されています。様々な分野の先生方の講演内容のエッセンスを盛り込んだページとそれを踏まえたワークブック形式のページがワンセット（見開き2ページ構成）となっています。「読んで書きおこす」というプロセスを通して、私たちの暮らしとまちの関係性について、自然と考えることのできる内容となっています。

このまちづくりガイドブックを使ったからといって、地区まちづくり計画がすぐに出来上がるわけではありません。しかし、

1人でも多くの方が「自分たちのまちを良くしたい…そのために私はどんなことができるのだろう」と言ったことを考えてもらえるきっかけになる事が期待されています。

西宮市における市民まちづくりはまだ始まったばかりですが、熱い思いを持った市民と行政職員の方々に出会い、私たちも非常にわくわくと期待するものがあります。このガイドブックが導火線となり、市内各地で住民主体のまちづくり機運が盛り上がることを楽しみにしています。

また、現在、都市計画マスタープラン策定後一年が経過し、形骸化しがちな都市計画マスタープランの見直し（進捗管理のあり方等）についても検討を始めつつあります。一歩ずつ着実に前進している西宮の市民主体のまちづくりを我々も応援していきたいと思います。

#### 8. 車を使うのをやめてみる

最近のまちづくりの目標として、「歩いて暮らせる」をキーワードに掲げることがよく聞かれます。自家所有車の利用は便利ですが、二酸化炭素を発生させ地球環境に良くない、高齢化が進むと運転ができなくなるなどの問題を抱えているので、駅周辺は歩いて日常生活ができるのが一番良い、ということになるのです。

みなさんがなんとなくそのことを理解しているにも関わらず、車を乗るのを控えたり、バスや電車に乗ったりということがなかなかできません。

商店街の活性化が大切だという話もよく聞かれますが、「あなたは商店街で買い物していますか？」と聞くと、善えに困ってしまう方がたくさんいます。多くの人が郊外の大規模店舗で買い物に行ったりしているのかもしれない。

私たちは頭でわかっているのに、「私一人くらいは…」という思いから、なかなかその行動を変えることができないのです。

あなたが求める理想のまちはどうなまちですか？  
あなたはそのまちでどんな暮らしがしたいですか？

もう一度、その問いを自分に投げかけて、そのためにあなたがふだんの生活でどんなことができるかを考えて、行動してみましょう。

第5回「人と環境にやさしい生活交通～近頃からはじまるまちづくり」  
（大阪大学准教授・松村博康氏）より

あなたは何院「どこ」で、「どんなこと」をしていますか？  
図にしてみましょう。  
そのときどんな移動手段を使いますか。



左ページは学識者の講演内容、右ページはそれを踏まえたワークブック形式となっています

## 飛翔するタイ・アジア経済 と日本の中小企業

代表取締役会長／杉原五郎

### アジア経済を牽引して疾走する タイ

9月1日の夜、関西国際空港を飛び立って、翌日早朝、タイ・バンコクのスワンナブーム国際空港に降り立った。飛行時間は約5時間。バンコクの街は、ひと、クルマ、バイクで溢れていた。そこには、アセアン10ヶ国、5.8億のアジア経済を牽引して疾走するタイの姿があった。

### チェラロンコン大学サシン経営 大学院との交流

今回のビジネスマッチングツアーは、ビジネススクールとして世界的にも実績をあげているチェラロンコン大学サシン経営大学院との交流がひとつの目的であった。

9月3日（月）の午前、サシン経営大学院日本センターの藤岡資正先生をはじめ、タイ投資委員会BOI、カシコン銀行リサーチセンターのスタッフから、アセアン経済の現状、日系企業のタイへの投資状況など基本的な説明を受けた。タイを中心とす



早朝から賑わうバンコクの市場

るアセアン経済が飛躍的に発展していること、日系企業のタイへの進出は約7000社と著しく、日本からの直接投資が大きく伸びていることなど改めて認識を新たにした。

午後、視察に参加した日本の中小企業18社から簡単な会社概要のプレゼンを行った。ちなみに、私は最初のプレゼンターとしてアルパックのプロフィールとツアーへの参加動機について説明した。その後、タイ国から参加した企業数社と日本企業とのビジネスマッチングが行われた。大阪の八尾で金属熱処理加工の会社を営んでいる社長は、タイへの進出の手がかりを得るため、情報収集に余念がなかった。

### 浸水被害を受けたロジャナ工業 団地と日系企業を訪問

9月4日（火）、バンコクから北へ約70km離れたアユタヤのロジャナ工業団地を訪ねた。昨年10月、工業団地内の工場は、洪水による甚大な浸水被害を受け、1階にあった機械がすべて水浸しになったが、ようやく復旧にこぎつけたとのこと。



クルマが溢れるバンコク市内の道路

団地内の日系企業2社を訪問。今年の4月から労働者の賃金が30%前後上昇して経営を圧迫しているとの声も聞かれたが、タイ進出の日系企業は好調な自動車産業に牽引され、総じて元気な印象を受けた。

1988年にタイに進出した（株）ソディック社は、工作機械では日本でもトップに位置している。生産拠点をタイに、そして本社機能と研究開発機能は日本国内に、との経営戦略を明確にしていた。日系企業のタイ進出は、グローバル経済の進展によりある意味避けられないことではあるが、その一方で、日本国内での雇用の減少など国内経済の空洞化も心配になった。

実質4日間のビジネスマッチングツアーではあったが、肌で感じ、実際に見聞して得たものは大きかった。帰国した6日の午後、京都商工会議所主催の政策フォーラム第2分科会（「グローバル社会」がテーマ）に出席し、タイで得たことをさっそく議論のまとめで報告することができた。私にとって、有意義でタイムリーな視察となった。



サシン経営大学院でのビジネスセミナー



きんきょう

i

SPOT

## アイ・スポット NEWS

### 「クリエイティブライフスタイルトーク#1 ジャズ×デザイン」を開催しました

8/8 (水) に、ジャズをデザインを通じて発信する新進気鋭のクリエイター藤岡宇央氏を迎えたトークイベントを開催しました。あわせて、藤岡氏の作品の展示も行いました。

藤岡氏は、関西一円のジャズライブ情報やコラムなどが掲載されたフリーペーパー「WAY OUT WEST」を毎月発行するなど、ジャズに特化したデザイナーとして独自の立ち位置を築かれ、デザインを通じた関西ジャズ界の活性化に尽力されています。

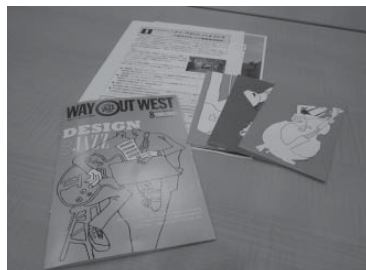
トークでは、藤岡氏がジャズ、デザインに目覚めたきっかけや、ブルーノート・レーベルなどの秀逸なジャケットデザインの話、それから様々な要素を採り入れた最近のジャズのスタイル、日本やアメリカのCD事情にも話が及びました。

参加者からは「とても遠くに



感じていたジャズの世界を少し身近に感じる事ができた」という声や、「ジャズはオワコン (= 終わったコンテンツ) ではないか」といった少し辛口? なコメントもありましたが、ゲストと参加者が互いに意見を交わす刺激的な時間でした。

「WAY OUT WEST」はアイ・スポットでも置いておりますので、ぜひ手にとってご覧ください。



### 「クリエイティブライフスタイルトーク#2 水辺のまち遊び」を開催しました

9/14 (金) には、水都大阪フェス2012のディレクターを務める泉英明氏を招いたトークイベントを開催しました。

江戸時代から現代までの大阪の水辺の楽しみ方を概観しながら、平成時代の水辺のまち遊び、水上カフェや大阪の新川床である北浜テラス、水都大阪フェスでの水辺バルなど、様々な新しい水辺での楽しみ方をご紹介いただきました。

構想を描く人は多いのですが、まずはゲリラ的に実際に活動し、社会実験やイベント等により様々な規制等の壁を乗り越



えながら事業化していくそのプロデュース力 (万人巻き込み能力?)。当然、当日も会場全体での巻き込み型クロストークで盛り上がりました。

「大阪水辺バル2012」は10月13日 (土)・14 (日) 開催です。是非、ご参加下さい!

今後とも、様々な企画を開催していきますので、ぜひともホームページをチェックしてください。

### アイ・スポット NEWS

<http://www.arpak.co.jp/i-spot/>

※アイ・スポットは、淀屋橋にある大阪市のまちづくり情報発信施設です。アルパックでは大阪市から管理・運営を受託しています。

(大阪事務所/絹原一寛・中塚一)



## MEDIA WATCH

高等研選書 22

「地震を知って震災に備える  
—京阪奈地域を中心として—」

著者：尾池和夫

出版：(財)国際高等研究所

地域計画の仕事は、ロケーション（場所・モノ）と、コンテンツ（中味・チエ）との相互関係を解き、組み立てることです。

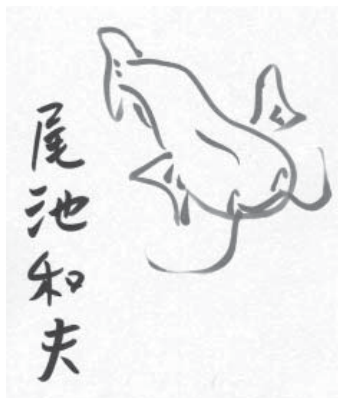
### 土木工学と社会科学

「場所・モノ」と「中味・チエ」のマッチングは、地域プロジェクトも、製造販売ビジネスも、原理・原則は同じです、場所或いは場所性を読むには先ずリクの地形図、ウミの航海用海図があります。最も基本は、地球物理の観測、知見。

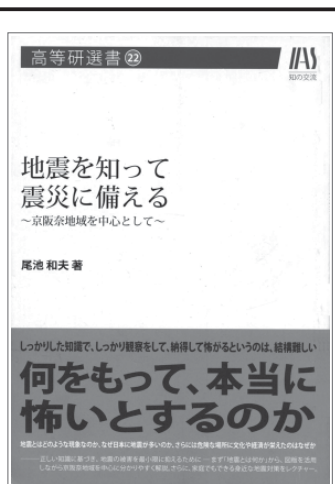
尾池先生は、ご存じ第24代京都大学総長、現・国際高等研究所所長。本著は2009年刊の高等研選書。2011年10月、関西学研都市OBのけいはんな都市クラブ総会でお会いした時に頂きました。専門性でいうと、場所は土木工学系、中味の財務・法制は社会科学系、アルパックはそのアンシエイツ。個人は専門の枠を超えて反対側に興味を持ち、学ぶと「幅」が広がります。100ページ、¥1,000。

### 脚下照顧

1時間もあれば読めますが内容は濃く座右において、コトに当たって読み返すようお奨めしま



サインとナマズ君



紹介者／名誉会長・顧問 三輪 泰司

す。少なくとも、近畿圏での仕事には必読です。

京阪奈地域を中心としてとありますように、京都盆地の地下構造から始まりますが、日本列島の形成、プレート変動、勿論、兵庫県南部地震、新潟県中越地震、鳥取県西部地震からフィリピン、スマトラと地球規模での地震、地殻に関する最先端の調査・知見が、たいそう判り易く展開します。

### 地殻変動と景観

四川、雲南の地殻変動のスピードは、日本の10倍。奇岩・奇勝は、その現れで、景色の良いところは、崩れやすいところでもあるのです。

時間感覚も考えさせられます。1万、10万年単位と、1000年、100年単位。我われはせいぜい10年単位で計画しますが、1000年目が明日になることは考えないことになっています。これでよいのでしょうか。

### 地震火山庁とジオパーク

制度やシステムも考え直す時期でしょう。明治のはじめに西欧から気象観測の文化を取り入れました。今も気象庁が担当していますが、日本は地震火山庁をつくるべきではないでしょうか。古記録では、オリジナルに地震記録をまとめ、カタログ化しています。「類聚国史」を編纂したのは菅原道真だそうです。

尾池先生は「日本ジオパーク委員会」委員長でもあります。2010年、山陰海岸が世界ジオパークネットワークに加盟が認定されました。地球科学に親しむパークです。



## 皇居ランの風景

大阪事務所／坂井信行

今、日本で一番人気のあるランニングコースといえば皇居周辺でしょう。特に皇居外周の歩道を周回する約5kmのコースが有名で、お濠の水と濠端の緑、石垣のある美しい風景が最大の特徴です。皇居は東京のど真ん中、外国人観光客にも知名度が高い日本を代表する観光地で、周辺には国会議事堂や最高裁判所などのスポットもたくさんあります。5kmという程よい距離、適度なアップダウン、信号がないこと、そして都心の利便性が人気のポイントでしょう。仕事帰りの人がランニングを楽しむために不可欠なロッカーやシャワーを利用できるランナーサポート施設もたくさん立地しています。

平日の夕方、仕事が終わる時間帯ともなると多くのランナーで混雑します。利用者調査によると平日の午後6時から9時までの間がピークだそうです。休日には皇居ランニングコースでの競技会なども開催されています。競技会では桜田門や千鳥ヶ淵公園などがスタート地点に設定されることが多いようです。

この境界はもともと観光客も多い場所ですから、混雑する時間帯にはランナーどうしやランナーと歩行者の間で接触や衝突のトラブルも多く問題となっています。このため、ランナーサポート施設等連絡会が「皇居ランナーマナー “10の宣言”」をつくってマナー向上を呼びかけています。皇居ランニングは左側通行で反時計回りが標準だそうです。山手線や大阪環状線で言う内回りです。道路管理者や交通管理者もランナーに対して他の利用者への配慮を促す立て看板を設置しています。それでもトラブルがなくならないのが関係者の悩みです。

皇居周辺の歩道は色々な立場の多くの人を利用するところですから、他者への思いやりを持って走ることが大切です。かつて、大都市江戸ではお互いが気持ちよく過ごせるよう、また商売繁盛にもつながる作法として「江戸しぐさ」が受け継がれていました。多様な人が共生する中で快適に暮らしていくため、イキに振る舞うかつての町衆の精神が皇居ランナーにも求められるのではないのでしょうか。



音楽を聴きながらおしゃれに走る



夕方になると混雑し始める



マナー向上をよびかける立て看板

## アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates · Kyoto

<http://www.arpak.co.jp> E-mail [info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F

TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F

TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F

TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128